

# ひまわり



令和3年1月12日(月)

## 風のように過ごす



「襲名（しゅうめい）もあるかないか分からない。オリンピックもあるかないか分からない。あるかないか分からないから、何事にもとらわれずに、風のように一年間を過ごすっていうのがテーマかな」

歌舞伎役者の市川海老蔵さんが、テレビ番組の中で語った言葉です。歌舞伎は400年以上の歴史をもつ日本の伝統芸能。「襲名」とは、師匠の芸名をつぐことです。昨年、海老蔵さんは「市川團十郎白猿（いちかわだんじゅうろうはくえん）」という芸名をつぐ予定でした。ちなみに、息子の堀越勘玄（ほりこし かんげん）さんは「市川新之助」という芸名をつぐ予定で、親子での襲名に多くのファンは期待を膨らませていました。しかし、新型コロナの影響で延期となりました。



襲名披露は一大行事。襲名が延期された時には、海老蔵さんの心中には複雑なものがあつたのではないのでしょうか。しかし、海老蔵さんはそれを昇華し、物事にとらわれない境地に達したのからこそ、このような言葉が出たのではと察します。

禅の思想に「放下着（ほうげじゃく）」という言葉があります。「放下」は放り投げること、「着」はそれを強調する語です。つまり、捨ててしまえという意味になります。

これは、何を捨てることを意味するのでしょうか。私なりの解釈を述べます。一つは「とらわれの心」。ここで言うとりわれとは、「〇〇だったら良かったのに」という、自分の思いと現実の乖離（かいり）に悩む心。もう一つは「比べる心」。他人と自分を比べて羨（うらや）む心を持つことは、自分自身を悩ませ、劣等感の増幅にもつながります。

それは、どうすればよいのでしょうか。「今はうまくいっていないが、こつこつ頑張れば何とかなる＝現実肯定と持続可能な努力」「自分は自分、人は人、自分のよさを生かして前向きに進んでいこう＝心を内（とりわけ自分の長所）に向ける」という考えを持つことが大切です。

海老蔵さんの言う「風のように過ごす」とは、このようなことではないかと思えます。

海老蔵さんの言う「風のように過ごす」とは、このようなことではないかと思えます。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索



